

## 話題のAI技術をテーマにコンクリート技術交流会を開催

11月1日、日本コンクリート技術(株)は、第一ホテル両国(東京・墨田区)で「第9回コンクリート技術交流会」を開催、全国各地から約150名の参加があった。

開会に先立ち主催者代表として同社最高技術顧問・長瀧重義氏(東京工業大学名誉教授)の挨拶で幕を開けると、『コンクリート分野におけるITやAIとの上手な付き合い方』をテーマにパネルディスカッションが行われた。久田真教授(東北大学大学院)をコーディネーターに迎え、6名のパネリストによる話題提供に沿って進められた。①土木工学科で教えるIoTとAI/綾野克紀氏(岡山大学)、②Society5.0を考える/片平博氏(土木研究所)、③生コン業界の現状と生産性向上への取り組み/原田修輔氏(全生工組連)、④発注者からみたIT技術活用の現状と課題/本間淳史氏(東日本高速道路)、⑤コンクリート品質へのアカウントビリティ~施工者の立場から/橋詰幸信氏(大成建設)、⑥ゼネコンのコンクリート工におけるICT技術の活用事例/名倉健二氏(清水建設)。このなかで、“AIは目的ではなく手段である”“今後はダムやトンネル以外の一般構造物でも適用が望まれる”“生産性向上とセットで考えるべき”などの意見が交わされ、最後に久田教授の“AIもITいずれも、良質なインフラを国民に提供するための技術である



会場の様子



開会挨拶の長瀧氏 特別講演(左:舟橋氏,右:村田氏)

ことを忘れてはならない”との言葉で結ばれた。

午後からは、太平洋セメント(株)やデンカ(株)等14社が出展したパネル展示にあわせ、各社のプレゼンテーションが行われるなど会場は賑わいを見せた。続いて特別講演として前田建設工業(株)ICI総合センターインキュベーション推進グループ長・舟橋政司氏による「空想を、ともに現実へ。-ゼネコンの新たな取組み」と、(株)建設技術研究所会長・村田和夫氏による「建設コンサルタントの現状と課題」が行われた。舟橋氏は、これまでの建設請負業としてのゼネコンの形をこれからは総合インフラサービス業ととらえ、同社が各地で取組むコンセッション事業を紹介。また今年2月に茨城県取手市にオープンしたICT総合センターを例にベンチャー企業とのコラボなど建設業の将来像を語った。

一方、村田氏は施工を除くすべての建設生産システムに関与する建設コンサルタント業を詳説した。太平洋戦争終戦間際に誕生した同業は、比較的新しい職種で、戦後の復興とともに進んだインフラ整備と建設業の拡大にあわせて成長してきた業界の概要と歴史を紹介。また、昨今の業務改善が進む中、業界再編の流れの中、i-Constructionといった新しい建設生産システムへの対応が迫られるなど業界の現状と今後を紹介した。

交流会の最後には、日本コンクリート技術(株)代表取締役社長の篠田佳男氏から閉会の挨拶があり、引き続き行われた意見交換会では、丸山久一氏(長岡技術科学大学名誉教授)の音頭で乾杯が行われ、恒例となった各地の銘酒を囲んでの和やかな雰囲気の中、懇談が行われた。